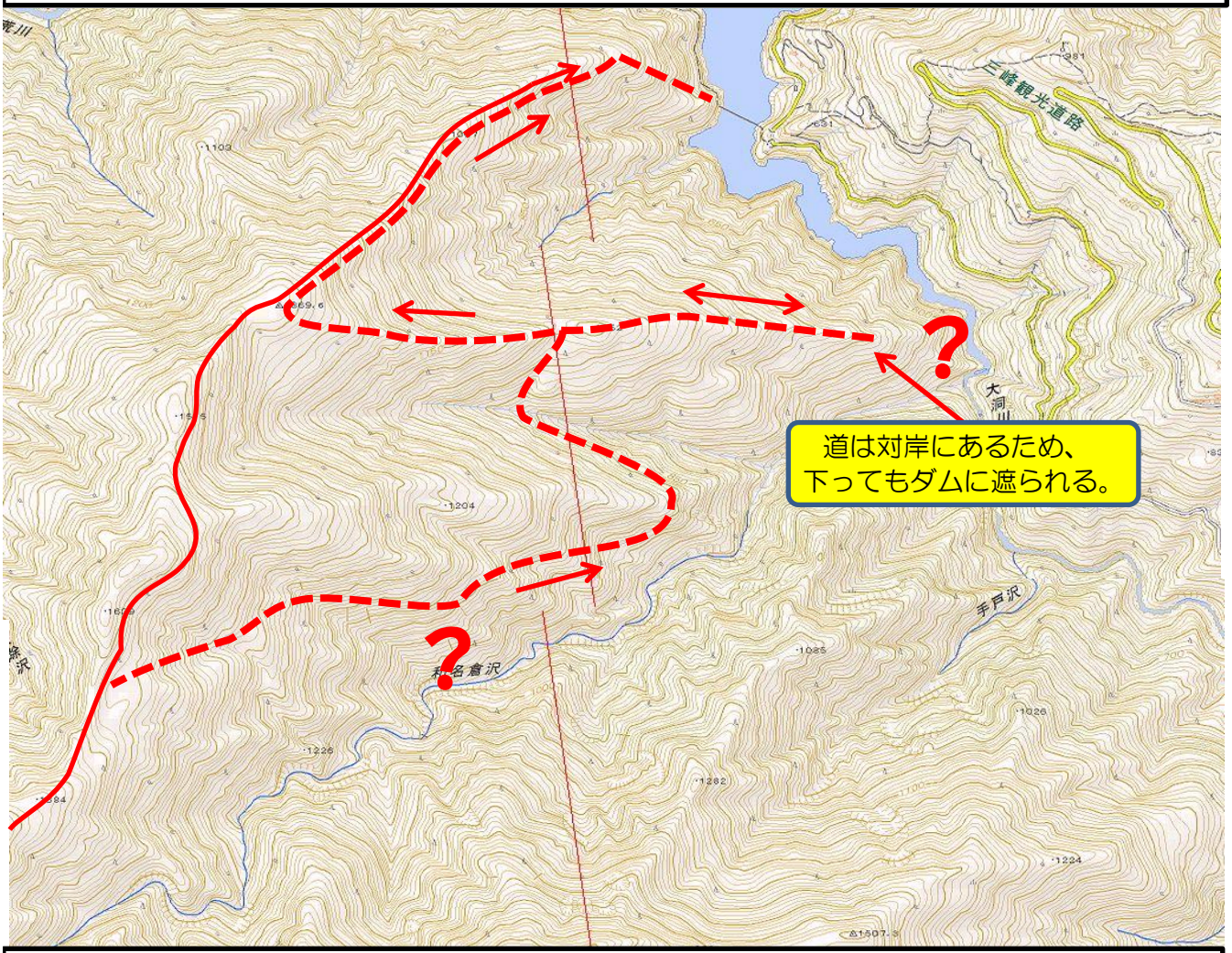
和名倉山遭難（2005年5月）

当初、2泊3日の計画を1泊2日に変更し、和名倉山から秩父湖へ下山する計画に変更。和名倉山から先は「迷いやすい」とガイドブックには書かれていたが日程が減ったので仕方がない。背丈を越えるササ藪が行く手を塞ぎ、沢登りの人たちが付けたテープに誘われ、沢の方へ進んでしまう。「これは沢登りのルートだ。下れない！」気づいた時は遅かった。



解説

日程が短縮され、「迷い易いルート」を選択してしまう。すべては、ここから始まった。ササ藪は、あちこちに目印のテープがあった。 登山道と思いテープを目印に進むが、尾根から外れ、沢の方向に行ってしまう。「間違ったルートを来ている」と気付いたが、引き返そうとはしなかった。テープのついている踏み跡をたどった方がいいと判断したからだ。しかし、その先は、ザイルが無いと進めない。沢を諦め、斜面に仕事道を見つけ進むが、途中で途絶えてしまう。急斜面は、携行していた補助ロープ（7㎜×15m）を使用した。地図とコンパスで確認しようとしたが、現在位置が分らない。尾根を下ったところで、秩父湖が見えた。林道は秩父湖の対岸を通っているためこのまま進んでも帰れない。現在位置が確認できたのが唯一の収穫だった。 翌日、尾根を登り返し、主尾根にでたところで全体の地形が確認できた。なんとか下山し、近くの酒屋に救助を求めた。

山中では、至るところに獣の足跡があった。道に見えた。赤テープが迷い道に誘い込み、ササ藪が心を砕く。25000分の1地形図には、破線の登山道は書かれていない。最新の注意が無ければ入ってはいけないエリアだった。